

ぎょうだ  
**歴史系譜**  
 205  
**行田の歴史再発見**  
 8

成田氏と忍城の築城

忍城を築いた成田氏は「成田系図」によれば、平安時代に京より国司（武蔵国の長官）として赴任してきた藤原氏一族の子孫が、成田郷（熊谷市東部から行田市西部）を拠点として勢力を持ち、成田姓を名乗ったとされます。鎌倉幕府の歴史を編さんした「吾妻鑑」には、文治5年（1189）の源頼朝の奥州出兵や、鎌倉幕府と京都の朝廷が戦った承久の乱に成田氏の一族が出陣したことが記されています。これらの戦いで軍功をあげて、成田氏は鎌倉幕府の御家人としての地位を築いていきました。鎌

倉時代後期になると、成田氏の親戚で武蔵国賀美郡安保郷（埼玉県神川町）を拠点としていた安保氏の一族が成田氏の所領を譲り受け、さらには成田姓を名乗り家名を継いでいったと思われる。室町時代中期の享徳3年（1454）、鎌倉公方足利氏と関東管領上杉氏の対立から享徳の乱が起こり、関東地方は130年余りに及ぶ戦国時代へと入っていきまし

た。両者の抗争の舞台となった下総・武蔵・上野の国境付近では、15世紀中ごろから多くの城郭が作られました。その中の一つが忍城であると考えられています。文明11年（1479）閏9月24日付けの足利成氏書状から、この年までには忍城が築城されていたことがわかります。

永正6年（1509）、忍城の成田顕泰を訪れた連歌師宗長はその光景を「水郷也、館のめぐり四方沼水幾重ともなく蘆の霜かれ、甘余町四方にかけて、水鳥多く見えわたるさまなるべし」と記しています。忍城は荒川水系の伏流水がわき出す沼地や、その中の小島を巧みに利用して築城されました。成田氏は忍城を拠点として、群雄割拠の戦国の世の中を生き抜いていったのです。



天正年間武蔵忍城之図

（郷土博物館 鈴木紀三雄）

**ござにちゃんが**  
 with フラベネ **行く!**

このコーナーでは、行田の歴史や名所、名物などを行田ゼリーフライキャラクターのござにちゃんが分かりやすく紹介し、行田のことを改めて知ってもらうことで、すべての市民が観光ガイドになれるような、おもてなしに役立つ情報を発信していきます。

おし じょう し  
**忍 城 址**

忍城は15世紀後半の室町時代、成田氏により建てられたといわれるお城で、関東七名城の一つに数えられているんです。豊臣軍の石田三成によって水攻めされたことが「のぼうの城」として小説や映画で取り上げられ、話題になっているよ。この水攻めでも城が落ちなかったことから別名「浮き城」とも呼ばれているんだって。明治維新後にお城は取り壊されてしまったけど、昭和63年に再建されたのが、現在の忍城 御三階櫓。行田を代表する観光名所のひとつなんですよ。



今月の表紙

2月20日、中央公民館で第1回行田市少年少女囲碁大会が開催されました。記念すべき第1回目の大会には、遠くは長野県から、中学生以下の児童・生徒93人が参加。浮き城のまち選手権大会、棋力別認定大会、9路盤戦の3種目で熱戦が繰り広げられたほか、プロ棋士の有村比呂司8段や本市出身の吉田晴美初段による指導碁、中島美恵子2段による入門教室などが行われ、参加者は、力量を試したりレベルアップに励んだりしていました。

- 市報ぎょうだに掲載されているあなたの写真を差し上げます。ご希望の方は、広報広聴課広報広聴担当（内線318）まで。
- 市民の皆さんの市政に対するご意見をお待ちしています。
- 市報をカセットテープに録音したものを希望者宅にお届けします。ご希望の方は、広報広聴課広報広聴担当（内線318）までご連絡ください。



市報ぎょうだは再生紙を使用しています